

請 願 文 書 表

受理年月日 及び番号	令和4年2月4日 第41号
件名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な 学校給食の提供を求める請願
請願者	  
紹介議員	沢田 けいじ 小林 れい子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

請願理由

除草剤ラウンドアップは、発がん性に加え、人間の免疫の中心である腸内細菌を殺してしまうことで、様々な疾患を誘発することが指摘されています。アメリカでは、2022年末で一般向けラウンドアップの販売が終了。ドイツ新政権は、2023年末までにラウンドアップの市場からの撤去を決めました。しかし日本は2021年、世界の流れに逆行して、ハチミツの残留基準値を0.01ppmから0.05ppmに緩和しました。

農薬は、主成分と補助剤で構成されています。ラウンドアップの主成分は、グリホサートです。主成分グリホサートは毒性が低く、草も枯れません。一方、補助剤は、主成分グリホサートの100～1000倍の毒性が研究で指摘されています。補助剤は、企業秘密で何が含まれているか不明です。カーン大学セラリーニ教授の研究では、補助剤から危険なヒ素が検出されています。

日本では、ラウンドアップの一日摂取許容量が(1mg/kg/日)に設定されています。しかし、この一日摂取許容量は主成分グリホサートのみから算出された値で、補助剤は強毒にもかかわらず評価されていません。動物を使った毒性試験も同様です。急性毒性試験だけはラウンドアップを使用しますが、発がん性など、すべての毒性試験は主成分グリホサートのみで行われます。ですから、日本のラウンドアップの安全基準は、現実と100～1000倍違うため、基準値以内の摂取でも子どもに影響を与える可能性があります。

2019年10月、欧州司法裁判所は「農薬は単独の有効成分(主成分)だけではなく、その売られている状態における安全性が審査されなければならない」と判断を下しています。日本では、ラウンドアップに限らず、すべての農薬の安全審査は主成分で行われ、安全基準が決まります。農薬の安全審査は、農薬会社が行います。国は提出される試験データを承認するのみで、国や第三者が試験をして安全性を確認する作業はありません。

ラウンドアップは、安全とされる基準値以下のごく微量(0.004mg/kg/日)の長期摂取で脂肪肝になることが、2017年のロンドン大学の動物実験で指摘されています。日本は、食品のグリホサート測定をしていません。ですから、グリホサートが高い確率で検出される輸入小麦を使用した学校給食のパンは、検査をして実態を把握することが必要です。検査費用は約2～3万円です。子どもは免疫ができていないため、大人に比べ農薬から受ける影響は深刻です。危険性が疑われる食材は学校給食に使用するべきではありません。

以上のような観点から文京区に対して下記のことを働きかけて頂きたい、お願いいたします。

請願事項

- 1 子どもが食べるパンのグリホサート残留数値を誰も知りません。検査費用は約2～3万円ですので、文の京の学校給食として、輸入小麦を使用したパンのグリホサート測定をしてください。
- 2 グリホサートの残留が懸念される輸入小麦を使用したパンは、前項の測定により安全性が確認されるまで、予防原則に基づいて文京区の学校給食での使用をやめ、米飯または安心安全な食材へ変更してください。